



「看護師さんとペアを組み、他職種とも連携して患者さんを支えています。医療介護福祉士は患者さんの想いをチーム内で伝え、質の高い医療へつなげます」と竹林さん。

## Medical care worker

川崎医療短期大学 医療介護福祉科  
山田順子 教授(学科主任)  
Junko Yamada

「自分らしく暮らしたい」という想いに介護を通して寄り添いながら、その人の尊厳を保障できる介護福祉士を育てます。医学、医療の知識は、急性期病院のチーム医療の一員として、また地域、福祉施設においても、その人らしい生活を支えるうえで役立ちます。卒業生は、病院でも福祉施設でも医療に強い介護福祉士として活躍しています。



「一緒に庭園に行ってみませんか？」天気の良い日は散歩日和。自分で起き上がり、病室から歩いて行く患者さんを温かく見守ることが自立支援につながる。



好きなことや趣味について会話のなかからくみ取り、その人に合ったレクリエーションを考案。充実した余暇の時間は本人のやる気につながり、回復を早めることも。

## 医療最前線

»» vol.63

川崎医科大学総合医療センター  
医療介護福祉士

竹林朝美

Asami Takebayashi

川崎医科大学総合医療センター  
回復期リハビリテーション病棟勤務

川崎医療短期大学  
医療介護福祉科 2017年卒業

Report!

## 医療に強い介護福祉士 次代を担う人材を最前線で育む

注目を集める

『医療介護福祉士』の役割。

「毎日が充実していても楽しいです」。目をキラキラと輝かせながら話す竹林朝美さんは、川崎医科大学総合医療センターで働く『医療介護福祉士』。「高齢者の方の力になれることが嬉しい。感謝されるたびに自分の役割を感じています」。竹林さんの落ち着いた口調からは二年目とは思えない仕事への対応力が感じられる。

一般的に介護福祉士といえば、福祉施設などで寝たきりの利用者をケアするのがおもな仕事とイメージしがちだが、病院内でホスピタリティがいっそう求められるなか、その一翼を担う介護福祉士は注目度が高く、同病院では『医療介護福祉士』と呼ばれている。

介護福祉士の病院内での役割はあまり知られていないが、高齢者が急病やけがなどで入院して（急性期から）、その後一日でも早く回復した状態で自宅へ戻る（在宅へ）には計画的なケアが不可欠。そのために診療の補助を担う看護師、訓練室で訓練を行う理学療法士、病棟での生活に寄り添い回復を支える医療介護福祉士とそれぞれが役割を分担している。

患者さんと一緒にいる時間が長い医療介護福祉士は、自立できるよう上手にやる気を引き出し、高齢者であれば認知機能が低下しないようなプログラムを立案するなど、ほかの職種にはない役割があるためニーズが高まっているという。

実践力を兼ね備えた  
医療に強い介護福祉士の育成。

竹林さんは川崎医療短期大学医療介護福祉科の五期生で、そこでの実践的な学びが今の仕事に生かされているという。「医療に強い介護福祉士の育成が社会的にも急務」と話すのは川崎医療短期大学医療介護福祉科で教鞭を執る山田順子教授(同学科主任)。高齢化が急速に進むなか、高齢者が治療後も自分でできることを増やすための技術は欠かせない。「病室で長く寄り添うことで、細やかに状態を把握して想いをくみ取り、それをチーム内で共有して有効な治療、訓練につなげます。寝たきりの人をひとりでも増やさないためには自立支援が大切です。その人らしさを尊重し、できることはしていただく。それによりご本人がやる気になる。そこにかかわるのが介護なのです」と山田教授。「今後、病院実習を強化したカリキュラムを導入していく予定です。本学園には二つの大学病院があり、ほかでは見られない実践力を兼ね備えた医療に強い介護福祉士の育成が可能なのです」。介護士不足が社会問題化している現在、ひと口に介護といっても現場での役割は多様。同学科の育成する人材が介護の現場をリードしていくことに期待が高まる。

川崎医科大学総合医療センター  
岡山市北区中山下4-1-1 ☎086-226-2111  
<https://g.kawasaki-m.ac.jp>

川崎医療短期大学  
倉敷市松島316 ☎086-464-1032  
<https://j.kawasaki-m.ac.jp>